

高知県埋蔵文化財センター年報

第14号

2004年度

財団法人 高知県文化財団
埋蔵文化財センター

高知県埋蔵文化財センター年報

第14号

2004年度

財団法人 高知県文化財団
埋蔵文化財センター

序

平成16年度は、平成8年度から続いた高知空港再拡張に伴う田村遺跡群の調査や木胎漆器など多くの話題のあった居徳遺跡などの大規模調査にかかる事業が平成15年度中にすべて完了し新たな体制での初年度にあたります。

当センターの中核事業であります発掘調査は、平成10年をピークに減少傾向にありましたが、本年度から日本道路公団による四国横断道路や国土交通省の東部自動車道や波介川改修事業にかかる本発掘調査が実施され発掘調査面積は大幅に増加いたしました。

当センターにおきましてもこれらの事業が遅滞なく円滑に行われ、十分な調査を行い記録保存によって貴重な文化財を後世に伝えることができるように調査体制の充実を図り各調査に対応致しました。

また、当センターのもう一つの柱であります普及啓発事業も小学生を対象として学校まで出向いて授業を行う「出前考古学教室」を始め様々な機会での講演や授業など積極的に外部に出向くほか、当センター展示室での企画展やインターネットのホームページを使った広報などを行い埋蔵文化財センターに対する理解を深めて頂けるよう努めております。

昨今の行財政改革の波と当センターも無縁の存在ではありませんが、埋蔵文化財の調査・研究を通じて県民の文化の向上に資するという基本理念を念頭に今後の事業に邁進してゆく所存でございます。

今後とも皆様のご協力、ご理解を賜りますとともにご指導いただけるようよろしくお願い致します。

平成17年10月20日

財団法人高知県文化財団 埋蔵文化財センター

所長 川村 寿雄

例言

- 1.本書は財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターの平成16(2004)年度事業の概要をまとめたものである。
- 2.各遺跡の発掘調査の概要については各担当が執筆した。
その他の執筆及び本書の編集については坂本(憲)が行い行った。なお、本書作成データを奥付に掲載している。

本文目次

序

I 財団法人高知県文化財団	1
1. 財団法人高知県文化財団の概要	
2. 財団法人高知県文化財団の組織	
II 埋蔵文化財センター	3
1. 埋蔵文化財センターの概要	
2. 埋蔵文化財センターの組織	
3. 埋蔵文化財センターの施設(建物)の概要	
4. 利用方法等について	
III 年間事業の概要	8
1. 発掘調査事業	
2. 発掘調査報告書・資料管理事業	
3. 普及啓発事業	
4. 研修事業	
IV 各遺跡の発掘調査概要	20
V 条例・規則	33
1. 高知県条例・規則	

表・図・写真目次

.....表.....	表10 平成16年度埋蔵文化財センター刊行報告書一覧
表1 高知県文化財団役員一覧表	表11 平成16年度現地説明会等一覧表
表2 埋蔵文化財センター職員一覧表	表12 平成16年度出前考古学教室実績一覧表
表3 本館施設面積	表13 平成16年度講師等職員派遣一覧表
表4 南館施設面積	表14 平成16年度市町村埋蔵文化財担当職員研修参加者一覧表
表5 北館施設面積	表15 平成16年度埋蔵文化財センター新規職員・市町村職員研修
表6 収蔵庫各層面積	
表7 平成16年度受託発掘調査事業(本発掘調査)一覧表	
表8 平成16年度受託発掘調査事業(試掘調査)一覧表	
表9 平成3～16年度の県内の発掘調査件数と調査面積一覧表挿図.....
	図1 高知県文化財団組織図
	図2 埋蔵文化財センター組織図

- 図3 高知県立埋蔵文化財センター2F平面図
図4 高知県立埋蔵文化財センター敷地と1F平面図
図5 平成16年度受託発掘調査事業(本発掘調査)位置図
図6 平成16年度受託発掘調査事業(試掘調査)位置図
図7 調査面積と調査件数変動グラフ

・・・・・・・・・・写真・・・・・・・・・・

- 写真1 展示会風景
写真2 授業風景
写真3 授業風景
写真4 火起こし体験

- 写真5 勾玉作り
写真6 遺構完掘状況
写真7 西野々遺跡I区竪穴住居跡(弥生時代)
写真8 III区溝状遺構(弥生時代～中世)
写真9 西野々遺跡I区掘立柱建物跡(古代)
写真10 西野々遺跡II区掘立柱建物跡(中世)
写真11 遺構完掘状況
写真12 青磁出土状況
写真13 背面調査遺構完掘状況
写真14 木器出土状況
写真15 北ノ丸遺跡出土琴
写真16 西山城遠景
写真17 詰作業風景

I 財団法人高知県文化財団

1. 財団法人高知県文化財団の概要

(1) 設立趣旨

近年、所得水準の向上や自由時間の増大など社会経済情勢の変化を背景に、芸術文化活動に直接参加し或いは歴史的・文化的遺産に自ら親しむことを通じて、生活の中に潤いとやすらぎを求めるといふ県民の文化的ニーズがかつてなく高まってきている。

このような時代の趨勢の中で、これからの文化行政は、より県民の期待に応えるものでなければならないが、特に、その推進に当たっては、単に行政のみが主導していくのではなく、行政と民間がそれぞれの叡知、力を出し合い、一致協力していくことが何よりも必要である。

高知県文化財団は、こういった使命と目的のもとに、県民文化の振興に資する芸術文化関連諸事業を、県、市町村、民間の力を幅広く結集して、総合的・体系的に運営実施すると共に、県民の文化活動の拠点となる各種の芸術文化施設についてもその特性を生かし公共性を確保しつつ、県民サービスの向上につながる柔軟で弾力的な管理運営を行うなど、今後の本県の芸術文化活動の推進母体としての役割を担おうとするものである。

(2) 事業内容

- ①音楽、演劇、美術その他の芸術文化事業
- ②教育、学術及び文化の国際交流事業
- ③歴史民俗資料館、美術館等芸術文化施設の管理運営事業
- ④埋蔵文化財の調査研究、整理保存、展示等の事業
- ⑤その他文化振興に関する事業

(3) 設立年月日

平成2年3月28日

(4) 事務局所在地

高知県高知市高須353 - 2
高知県立美術館内

2. 財団法人高知県文化財団の組織

(1) 財団組織

① 理事会役員

理事長1名 副理事長2名 専務理事1名 理事8名 監事3名

② 事務局

総務部長(専務理事) - 総務課長 - 事務職員

③財団組織図

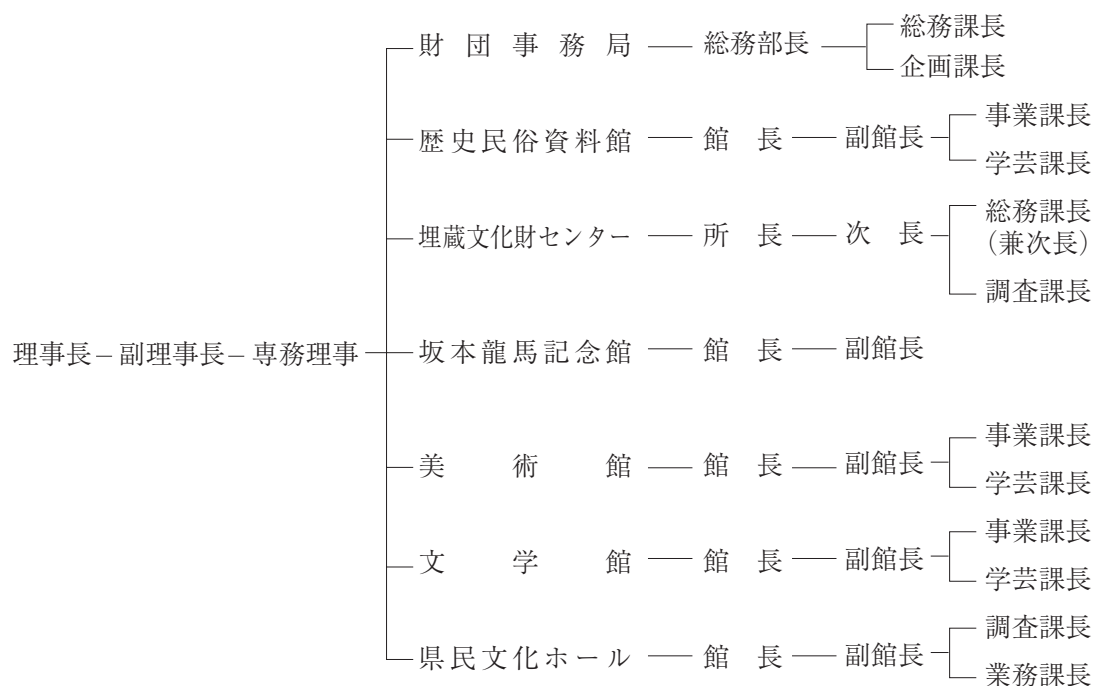


図1 高知県文化財団組織図

(2) 財団役員

役職名	氏名	備考
理事長	橋本 大二郎	高知県知事
副理事長	濱田 松一	(株)四国銀行頭取
副理事長	尾崎 祐正	高知県文化環境部長
理事	山中 哲夫	県理事
〃	岡崎 誠也	高知州市長会会長
〃	藤崎 富士登	高知県町村会会長
〃	岩井 寿夫	(株)高知新聞社代表取締役社長
〃	竹村 維早矢	高知商工会議所副会頭
〃	岡内 紀雄	(株)高知銀行頭取
〃	大崎 博澄	高知県教育長
〃	池本 武広	高知県総務部長
〃	山本 眞壽	染織家
監事	島本 博子	高知市収入役
〃	日浦 武	(株)四国銀行営業統括部長
〃	植田 紹春	高知県副出納長

表1 高知県文化財団役員一覧表

Ⅱ 埋蔵文化財センター

1. 埋蔵文化財センターの概要

(1) 設置目的

高知県における遺跡を発掘調査し、その遺物を埋蔵文化財として保存管理し、後世に文化遺産として残すとともに、一般公開や展示等の活動を通じて埋蔵文化財の保護普及を図り、歴史的・地域文化の振興に寄与する。

(2) 事業内容

①埋蔵文化財の発掘調査

県内における遺跡の発掘調査を行い、調査報告書を刊行する。

②埋蔵文化財の保存管理

発掘調査等による出土遺物、調査記録等の管理及び保管を行う。

③埋蔵文化財の研究・普及啓発

埋蔵文化財について調査研究を行うとともに、その成果をもとにした出土遺物の公開展示、現地説明会及び展示会の開催等により、埋蔵文化財保護思想の普及啓発を図る。

④埋蔵文化財に関する資料収集及び情報提供に関すること

⑤高知県立埋蔵文化財センターの管理・運営に関すること

(3) 埋蔵文化財センター所在地および連絡先

住所 高知県南国市篠原1437-1

電話 088-864-0671

ファックス 088-864-0671

電子メールアドレス maibun@kochi-bunkazaidan.or.jp

ホームページ<http://kochi-bunkazaidan.or.jp/~maibun/>

(4) 沿革

平成2年3月	財団法人高知県文化財団設立に伴い、埋蔵文化財センター開設準備室設置
平成3年3月	高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例制定
平成3年4月	高知県立埋蔵文化財センター開設
平成3年4月	財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター開設
平成5年7月	国庫補助事業により埋蔵文化財センター南館建設
平成13年10月	高知県事業として本館及び収蔵庫建設

2. 埋蔵文化財センターの組織

(1) 埋蔵文化財センター組織図

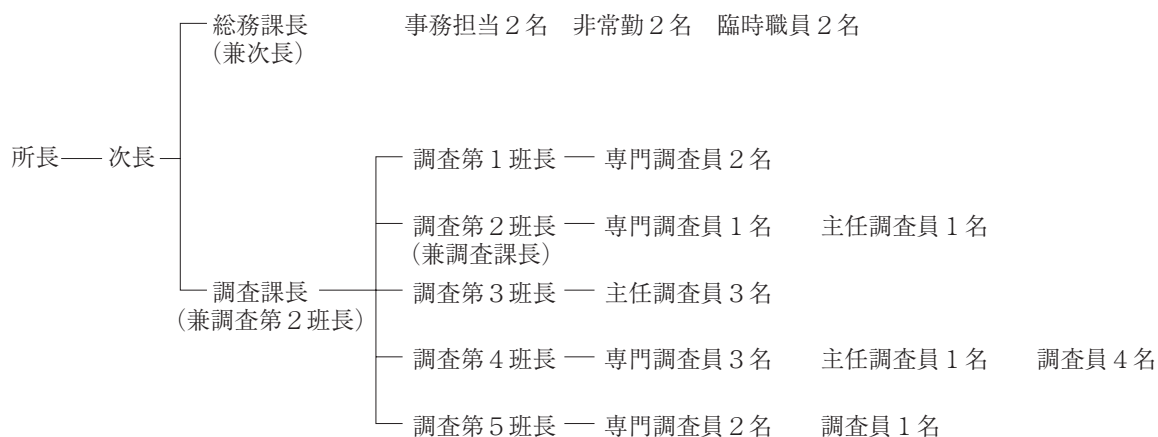


図2 埋蔵文化財センター組織図

表2 埋蔵文化財センター職員一覧表

職 名		氏 名	所 属	
所 長		川 村 寿 雄	高知県教育委員会参事	
総務担当	次 長 兼 総 務 課 長	久 川 清 利	高知県教育委員会文化財課	
	主 任	池 野 かおり	高知県教育委員会文化財課	
	主 幹	長谷川 明 生	高知県教育委員会文化財課	
	非 常 勤 職 員	浅 井 慎 介	高知県文化財団	
	非 常 勤 職 員	榊 琴 美	高知県文化財団	
調 査 課 長		横 山 耿 一	高知県教育委員会文化財課	
調査担当	調査第一班	調査第一班長	山 本 哲 也	高知県教育委員会文化財課
		専 門 調 査 員	今 原 莊 典	高知県教育委員会文化財課
		専 門 調 査 員	岩 本 繁 樹	高知県教育委員会文化財課
	調査第二班	調査第二班長 (兼調査課長)	横 山 耿 一	高知県教育委員会文化財課
		専 門 調 査 員	前 田 光 雄	高知県教育委員会文化財課
		主 任 調 査 員	坂 本 憲 昭	高知県文化財団
	調査第三班	調査第三班長	出 原 恵 三	高知県教育委員会文化財課
		主 任 調 査 員	藤 方 正 治	高知県文化財団
		主 任 調 査 員	吉 成 承 三	高知県文化財団
		主 任 調 査 員	前 田 憲 志	高知県教育委員会文化財課
	調査第四班	調査第四班長	廣 田 佳 久	高知県教育委員会文化財課
		専 門 調 査 員	田 渕 瑞 世	高知県教育委員会文化財課
専 門 調 査 員		堅 田 至	高知県教育委員会文化財課	

調査担当	調査第四班	専門調査員	中山真司	高知県教育委員会文化財課
		主任調査員	曾我貴行	高知県文化財団
		調査員	小野由香	高知県文化財団
		調査員	筒井三菜	高知県文化財団
		調査員	下村裕	高知県文化財団
	調査第五班	調査第五班長	松田直則	高知県教育委員会文化財課
		専門調査員	坂本信之	高知県教育委員会文化財課
		調査員	久家隆芳	高知県文化財団

3. 埋蔵文化財センターの施設(建物)の概要

埋蔵文化財センターの施設

埋蔵文化財センターの施設は、現在本館、南館、北館、収蔵庫の4棟の建物で構成されており、本館と収蔵庫が平成12・13年度の国庫補助事業、南館が平成4・5年度の国庫補助事業、北館が平成2年度の県単事業として建設されたものである。

平成13年12月4に落成した本館には、展示・研修室や特別収蔵庫、さらに情報管理室が設置され、調査・研究以外に公報・普及活動にも活用されている。

収蔵管理スペースとして、遺物保管がコンテナケース(W390mm・D590mm・H190mm換算)にして収蔵庫(3層)に30,000箱、南館1Fに4,416箱の計34,416箱、図書・図面保管庫には報告書等の書籍(H297mm・D210mm・W12mm平均として)が約100,800冊、A1図面ファイル(H62mm・D442mm・W28mm換算)が約3,360冊、A2図面ファイル(H440mm・D315mm・W28mm換算)が約10,080冊、写真保管室には写真ファイル(H325mm・D315mm・W35mm換算)が約9,472冊収納できるように設計している。

なお、施設の概要は以下のとおりである。

施設名称	高知県立埋蔵文化財センター			
敷地面積	4,203㎡			
建築面積	本館	617.02㎡	北館	263.12㎡
	南館	574.11㎡	収蔵庫	619.40㎡
延床面積	本館	1,037.11㎡	北館	518.40㎡
	南館	1,045.92㎡	収蔵庫	1,472.11㎡
建物構造	本館	鉄骨造2階建(事務室、調査員室、会議室、展示室、研修室、写真保管室、図書室、特別収蔵庫等)		
	南館	鉄骨造2階建(整理室、写場、収蔵庫等)		
	北館	鉄骨造2階建(整理室、収蔵庫等)		
	収蔵庫	鉄骨造1階建(3層)		

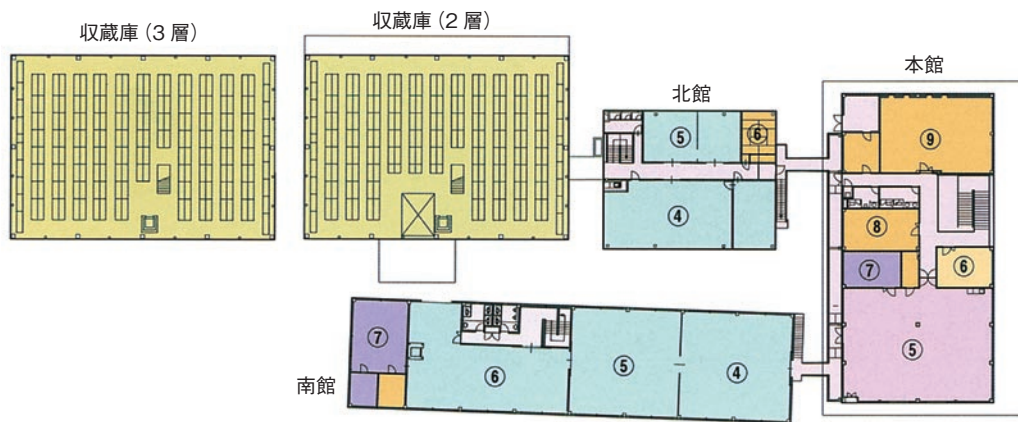


図3 高知県立埋蔵文化財センター2F平面図(S=1/800)

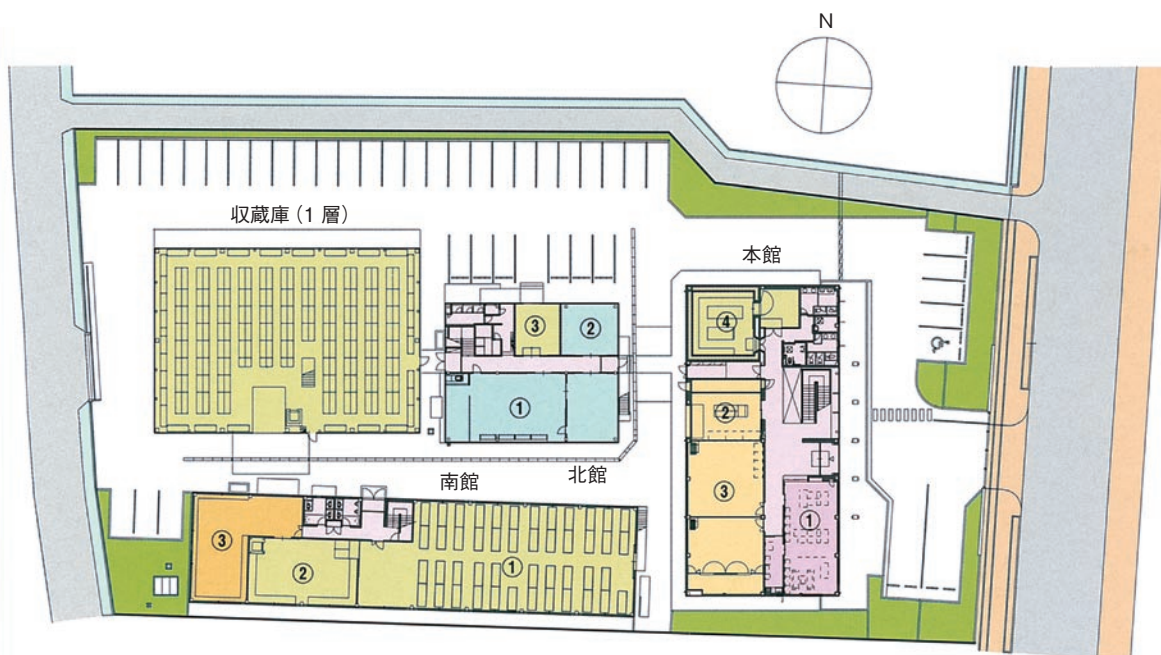


図4 高知県立埋蔵文化財センター敷地と1F平面図(S=1/800)

4. 利用方法等について

(1) センターの利用

利用者は、センターに保存されている埋蔵文化財及び保管されている埋蔵文化財に関する資料の観覧、閲覧、撮影又は模写等ができる。

(2) 利用時間

午前8時30分から午後5時まで

(3) 休所日

- ① 土曜日及び日曜日
- ② 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- ③ 1月2日から1月4日まで及び12月28日から31日まで

表3 本館施設面積

本館 1 階		本館 2 階	
室名	面積	室名	面積
① 事務室・所長室	83.82m ²	⑤ 調査員室	194.38m ²
② 展示室	51.63m ²	⑥ 会議室	25.18m ²
③ 研修室	131.43m ²	⑦ 情報管理室	30.38m ²
④ 特別収蔵庫	78.28m ²	⑧ 写真保管室	38.38m ²
玄関ホール他	173.88m ²	⑨ 図書・図面保管室	100.44m ²
		階段・通路他	129.31m ²
合計	519.04m ²	合計	518.07m ²

表6 収蔵庫各層面積

収蔵庫	面積
1層	528.60m ²
2層	462.48m ²
3層	481.03m ²
合計	1,472.11m ²

表4 南館施設面積

南館 1 階		南館 2 階	
室名	面積	室名	面積
① 復元収蔵庫	303.89m ²	④ 整理作業室1	131.10m ²
② 仮収蔵庫	81.03m ²	⑤ 整理作業室2	131.10m ²
③ 機材庫	92.39m ²	⑥ 洗浄整理室	143.83m ²
階段・通路他	46.45m ²	⑦ 撮影室	56.10m ²
		階段・通路・倉庫	60.03m ²
合計	523.76m ²	合計	522.16m ²

表5 北館施設面積

北館 1 階		北館 2 階	
室名	面積	室名	面積
① 洗浄整理室	129.60m ²	④ 整理作業室2	129.60m ²
② 整理作業室1	32.40m ²	⑤ 整理作業室3	55.89m ²
③ 仮収蔵庫	25.92m ²	⑥ 休養室	19.44m ²
階段・通路他	71.28m ²	階段・通路他	54.27m ²
合計	259.20m ²	合計	259.20m ²

Ⅲ 年間事業の概要

1. 発掘調査事業

昨年度、平成15年度は長期にわたった大規模調査の高知空港拡張整備事業に伴う田村遺跡群と高速道路関連の居徳遺跡群の報告書が3月に刊行され大規模事業が全て終了し、2班と3班の整理・報告書刊行業務を行ってきた人員配置を解体し、発掘調査中心の体制に再編成を行った。

平成15年度の発掘調査は大規模発掘の終了に伴い国土交通省、日本道路公団及び県関係を主体とする試掘調査・発掘調査の面積は少なかったが、高知南国道路外1件埋蔵文化財発掘調査事業と四国横断自動車道建設に伴う試掘調査が行われ、平成16年度以降の比較的規模の大きな受託事業の準備の年度になった。

平成16年度は前年度の試掘調査によって国土交通省からの受託事業である高知南国道路外1件埋蔵文化財発掘調査事業と日本道路公団からの受託事業である四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査事業の発掘調査が行われることとなり、調査面積は平成13年度以来の水準になった。

埋蔵文化財センターの体制は、総務課と調査課(5班)で構成され、職員数は所長ほか24名で前年度に比べると1名の減であるが、総務課職員の減員である。調査課は調査面積が増加したものの大規模事業の整理作業が終了に伴い整理担当者を発掘調査にあてたことにより、前年同様課長以下22名の体制であった。職員の内訳は、県教育委員会事務局から(所長・次長兼総務課長・総務課職員2名・調査課長兼第二班長・各班長)の計10名、教職員から7名がそれぞれ派遣され、財団採用職員が9名である。

調査課の業務分担は主に、第一班が出土遺物の保管と管理、普及啓発、第二班は国土交通省大方バイパス関係及び県土木関係のあけぼの道路の一部、第三班が日本道路公団による四国横断自動車道関連と河川改修・道路整備等の県及び国土交通省の事業、第四班は国土交通省の高知南国道路外1件と土佐市バイパスとに関係する事業、第五班は高知城をはじめとする県関係の事業という構成であった。

(1) 受託事業

平成16年度の受託契約件数は11件で、調査した遺跡の内訳は本発掘調査が6カ所、試掘調査が10カ所、整理作業が1件であった。

受託相手方は国土交通省5件、高知県土木事務所4件、道路公団1件、高知県教育委員会1件であった。

受託による発掘調査の件数は昨年度の17件と比較して減少しているが、調査面積は昨年度が6,052㎡であったのに対して34,285㎡と大きく増加している。その要因として国土交通省の東部自動車道建設に伴う西野々遺跡発掘調査と口槇ヶ谷遺跡が挙げられる。調査面積は西野々遺跡が17,365㎡、口槇ヶ谷遺跡が7,215㎡でこれらが全体の約72%を占めており、東部自動車道建設に伴う発掘調査が本年度の事業の柱であったといえる。その他では、道路公団の四国横断自動車道関係の西山城跡が4,000㎡で坪ノ内遺跡が800㎡であった。高知城の石垣整備事業に伴うもの1件で面積約730㎡であった。

試掘調査は10カ所行われた。県からの受託事業は試掘調査のみで4件であった。その他では国土

交通省で東部自動車道関係が1件、河川改修に伴う新居地区試掘調査1件、大方バイパス関係が3カ所であった。

これらの試掘調査で次年度以降の本調査が必要と判断したものは、県関係では西南大規模公園に伴う弘野遺跡、吹上城跡、国道195号線改築に伴うミトロ遺跡で、国土交通省関係では東部自動車道香我美地区、河川改修に伴う新居地区、大方バイパス関連(中村宿毛道路)坂本遺跡が挙げられる。

その他受託事業では整理作業のみを行った国土交通省土佐市バイパス関連の野田遺跡、安芸土木事務所見谷川関連の桜木遺跡外が挙げられる。

(2) 受託事業

平成16年度の調査指導のための市町村への職員派遣は吾川村教育委員会、南国市教育委員会、大月町教育委員会への3件のみであった。

No.	遺跡名	調査略号	所在地	時代	種別	面積 (㎡)	期間	原因	委託者
1	口横ヶ谷遺跡	04-1YK	夜須町千切	弥生時代, 古代～近世	集落	7,215	5/12～1/31	東部自動車道	国土交通省
2	西野々遺跡	04-2NN	南国市西野々	弥生時代～近世	集落	17,365	5/17～2/21	東部自動車道	国土交通省
3	坪ノ内遺跡	04-4NT	中土佐町久礼	中世・戦国時代	集落	800	6/7～7/14	四国横断自動車道	道路公団
4	高知城跡	04-6KK	高知市丸ノ内	中世～近世	城郭	730	8/9～3/31	高知城石垣	高知県教育委員会
5	北ノ丸遺跡	04-9TK	土佐市新居	古墳時代後期～古代	集落	1,500	10/12～12/14	河川改修	国土交通省
6	西山城跡	04-7NT	中土佐町久礼	中世	城郭	4,000	11/5～3/16	四国横断自動車道	道路公団
合計						24,395			

表7 平成16年度受託発掘調査事業(本発掘調査)一覧表

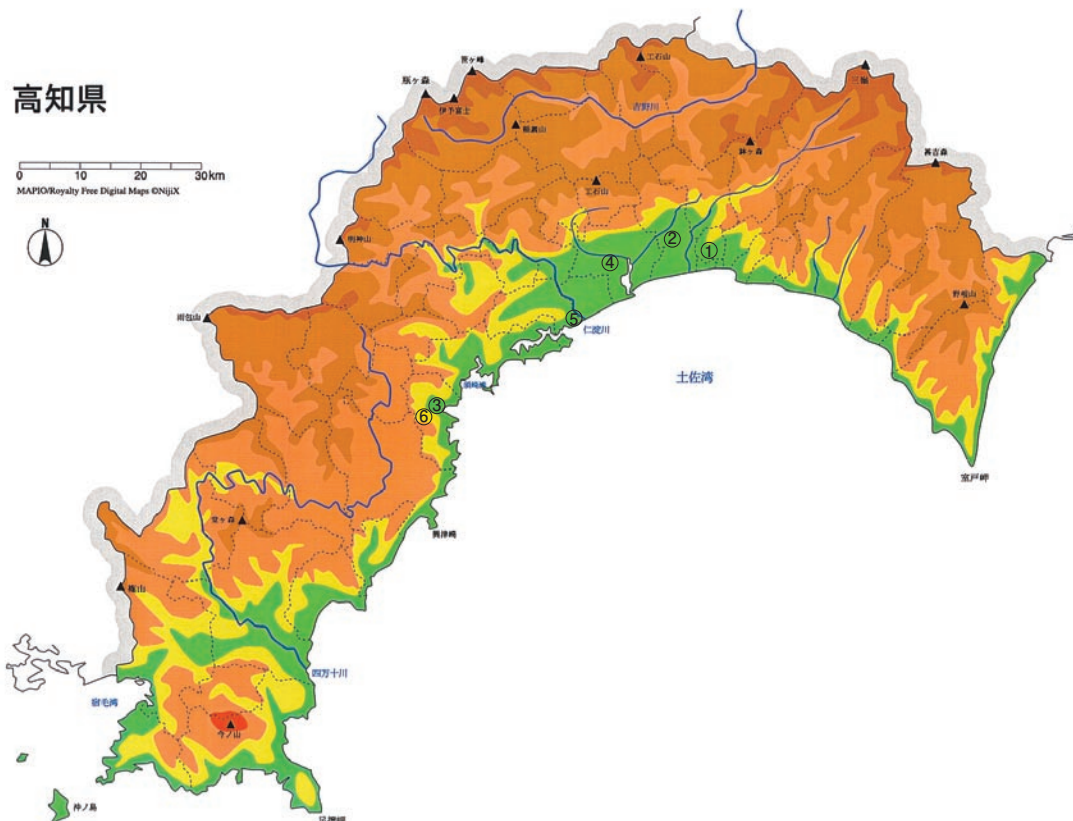


図5 平成16年度受託発掘調査事業(本発掘調査)位置図(番号は表7の番号と一致)

No.	遺跡名	調査略号	所在地	時代	種別	面積 (㎡)	期間	原因	委託者
1	吹上城跡	04-30HF	大方町浮鞭	中世	城郭	176	5/17～6/17	西南大規模公園	高知県土木
2	弘野遺跡	04-30HF	大方町浮鞭	中世	集落	424	9/7～9/21	西南大規模公園	高知県土木
3	新居地区 (北ノ丸遺跡)	04-5NT	土佐市新居	古墳時代後期～古代	集落	635	7/21～8/13	河川改修	国土交通省
4	古津賀遺跡	04-8NKO	中村市古津賀	古墳時代	集落	288	10/4～10/29	大方バイパス	国土交通省
5	加茂ハイタノ クボ遺跡	04-10YH	土佐山田町 山田島	縄文時代～近世	集落	20	10/18～10/27	県道宮ノ口深淵 線	高知県土木
6	坂本遺跡	04-11NSA	中村市坂本	中世	寺院	65	11/8～11/26	中村宿毛道路	国土交通省
7	下田ノ口地区	04-12OST	大方町 下田ノ口	—		15	11/29～12/1	大方バイパス	国土交通省
8	香我美町 徳王子地区	04-14KT	香我美町 徳王子	弥生時代	散布地	424	2/21～3/15	東部自動車道	国土交通省
9	ミト口遺跡	04-13KNM	高知市布師田	弥生時代	集落	108	1/11～1/31	国道195号改良	高知県土木
10	芝・中島地区	—	土佐市高岡	—		520		土佐市バイパス	国土交通省
合計						1,440			

表8 平成16年度受託発掘事業調査(試掘調査)一覧表

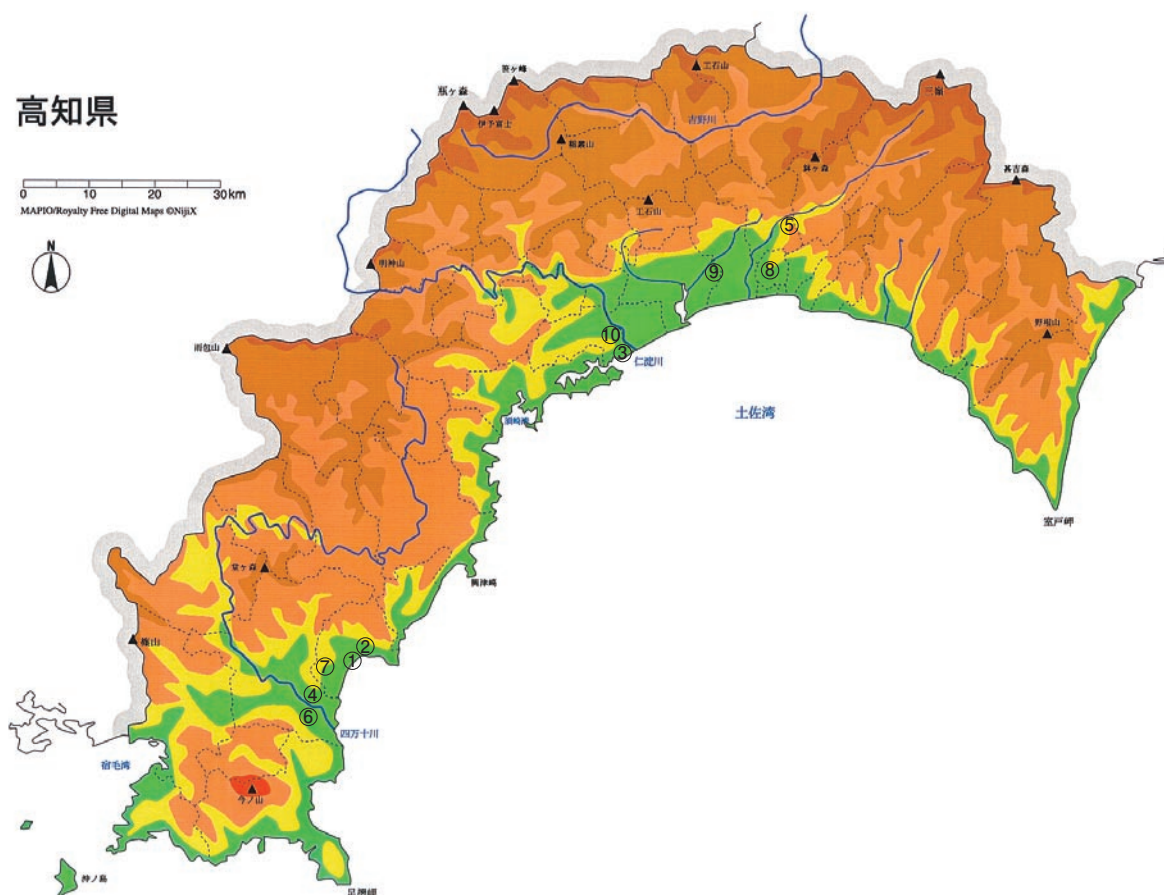


図6 平成16年度受託発掘事業調査(試掘調査)位置図(番号は表8の番号と一致)

Ⅲ 年間事業の概要

年度	受託件数	受託面積	職員派遣数	職員派遣調査面積	調査面積小計	県市町村調査件数	県市町村調査面積	県市町村立会件数	県市町村立会面積	調査面積合計
平成3年度	16件	24,310㎡	18件	10,270㎡	34,580㎡	5件	870㎡	0件	0㎡	35,450㎡
平成4年度	11件	14,663㎡	23件	14,984㎡	29,647㎡	1件	90㎡	0件	0㎡	29,737㎡
平成5年度	16件	17,010㎡	24件	22,630㎡	39,640㎡	0件	0㎡	0件	0㎡	39,640㎡
平成6年度	10件	28,233㎡	26件	10,650㎡	38,883㎡	5件	907㎡	7件	1253㎡	41,043㎡
平成7年度	14件	28,856㎡	21件	152,412㎡	41,268㎡	6件	4,484㎡	12件	265㎡	46,017㎡
平成8年度	20件	88,178㎡	13件	16,508㎡	104,686㎡	31件	11,475㎡	16件	649㎡	116,810㎡
平成9年度	14件	93,675㎡	8件	7,584㎡	101,259㎡	39件	15,530㎡	13件	1,179㎡	117,968㎡
平成10年度	20件	111,990㎡	8件	3,177㎡	1,151,167㎡	50件	19,647㎡	12件	7,351㎡	142,165㎡
平成11年度	23件	41,320㎡	10件	25,762㎡	67,082㎡	47件	41,348㎡	14件	6,621㎡	115,051㎡
平成12年度	6件	27,314㎡	15件	17,735㎡	45,049㎡	10件	41,268㎡	26件	13,127㎡	99,444㎡
平成13年度	31件	21,853㎡	2件	0㎡	21,853㎡	48件	13,313㎡	31件	2,853㎡	38,019㎡
平成14年度	28件	10,488㎡	4件	0㎡	10,488㎡	57件	9,759㎡	41件	24,754㎡	45,001㎡
平成15年度	17件	6,052㎡	1件	0㎡	6,052㎡	50件	7,879㎡	59件	14,905㎡	28,836㎡
平成16年度	16件	34,285㎡	0件	0㎡	34,285㎡	33件	3,280㎡	59件	44,080㎡	81,645㎡

表9 平成3～16年度の県内の発掘調査件数と調査面積一覧表

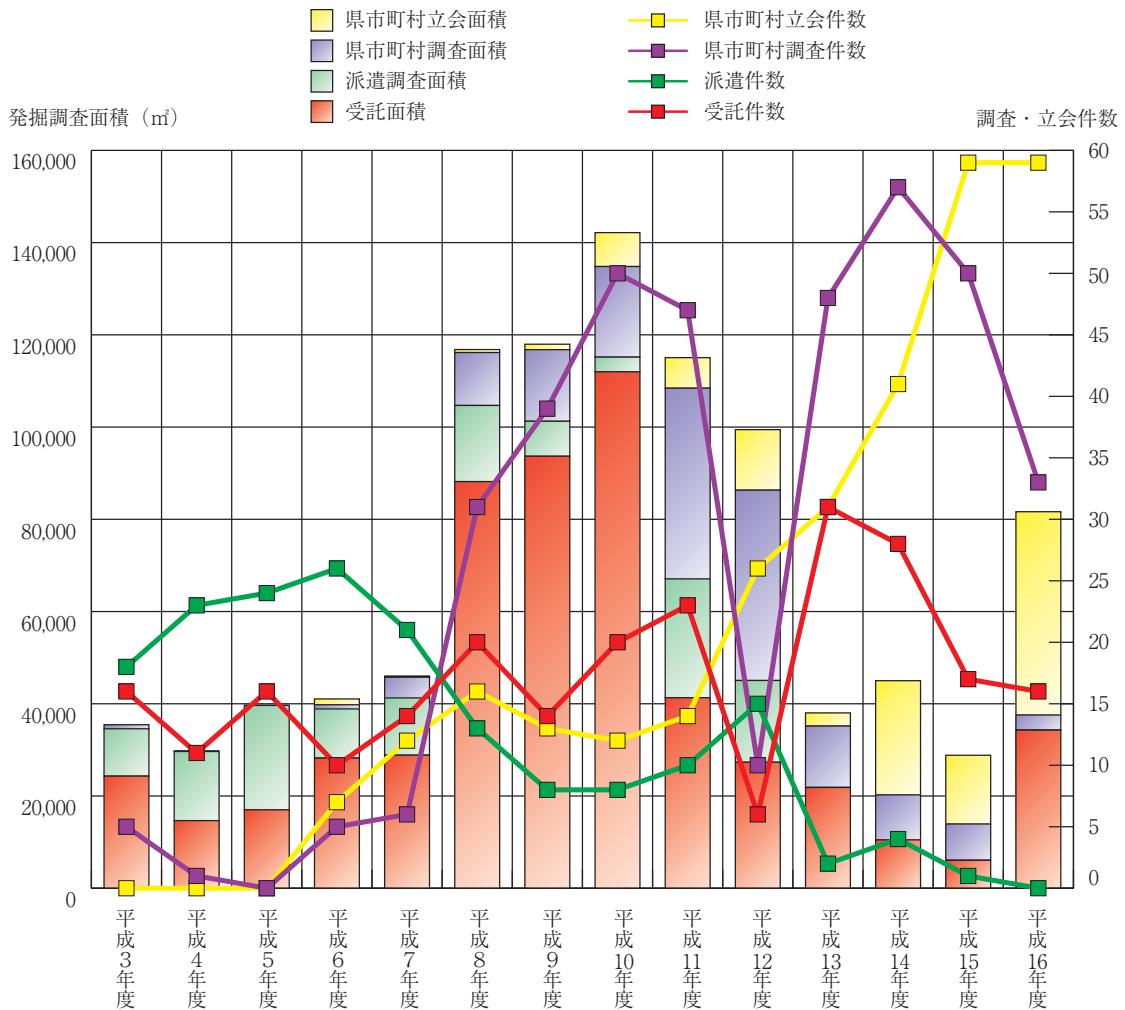


図7 調査面積と調査件数変動グラフ

2. 発掘調査報告書・資料管理事業

平成16年度に刊行した報告書は表1のとおりで高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第92集から94集までの3冊である。本年度は規模が大きく複数年度にまたがる調査の初年度に当たるため、報告書刊行数が昨年度より少なくなっている。

資料管理事業では、報告書等のデータベース化が一段落し、報告書等のデジタルアーカイブ事業が中心となった。

高知県文化財団高知県埋蔵文化財センターでは、本県の埋蔵文化財調査・研究の中心を担っていることを踏まえ、これまでに蓄積された埋蔵文化財情報を効率良く管理・活用すると共に県民を始めとした一般の方々への情報公開を目的に平成10年度郵政省の寄付金付きお年玉付き郵便はがき等寄付金を受け、埋蔵文化財情報管理システムを導入し、遺跡情報・県内発掘情報・収蔵図書情報をWeb公開し埋蔵文化財の情報を提供してきた。

さらに、発行部数が300～500冊と限られた発掘調査報告書などについて本年度の県予算で、当センターが発行したデジタルデータのない報告書などをPDF化することで、Web公開でき、一般の方々に自由にダウンロードして見てもらうことができるようになった。これによって県民を始めとした一般の方々に埋蔵文化財の情報並びに資料を今まで以上に提供できるようになった。また平成17年度中には埋蔵文化財センターが発行した全ての報告書や現地説明会資料などの印刷物についてデジタル化される予定です。

高知県埋蔵文化財センターのURL

<http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~maibun/>

高知県埋蔵文化財センター情報管理システムのURL

http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~maibun/database_pdf/index.htm

シリーズNo.	シリーズ名・副題	報告書名	編集・執筆者
92	県道宮ノ口深淵線緊急地方道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	林田遺跡Ⅲ	藤方正治
93	土佐市バイパス埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ	野田遺跡Ⅱ・野田廃寺	廣田佳久・徳平涼子・大原直美
94	見谷川災害関連工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	桜木遺跡	池澤俊幸・藤方正治

表10 平成16年度埋蔵文化財センター刊行報告書一覧表

3. 普及啓発事業

発掘調査事業、発掘調査報告書・資料管理事業と並び重要な事業として、多くの方々に埋蔵文化財を理解していただくために普及啓発事業が挙げられる。

主なものとして、実際の発掘調査の現地を見ていただくことによって遺跡を身近に感じていただくための現地説明会や出土品を展示する企画展、常設展、また職員が講師となって学校へ出向き実際の遺物に触れ体験を行うことによって埋蔵文化財への興味・理解を深めることを目的とした出前考古学教室や研修会や講演会への講師の派遣を行っている。

現地説明会

16年度の高知県埋蔵文化財センター主催の現地説明会は、4件で西山城跡200人、西野々遺跡150人、坪ノ内遺跡150人、高知城跡200人の見学者があった。

遺跡名	場所	記者発表	現地説明会	参加人員
坪ノ内遺跡	中土佐町久礼坪ノ内	平成16年7月9日(金)	平成16年7月11日(日)	80
口横ヶ谷遺跡	夜須町出口・千切れ	-	平成16年11月20日(土)	80
北ノ丸遺跡	土佐市新居上ノ村	平成16年12月3日(金)	平成16年12月5日(日)	100
西野々遺跡	南国市大桶西野々	平成17年1月20日(木)	平成17年1月22日(土)	150
高知城跡三ノ丸	高知市丸ノ内	平成17年2月24日(木)	平成17年2月27日(日)	500
西山城跡	中土佐町久礼	平成17年3月4日(金)	平成17年3月6日(日)	200

表11 平成16年度現地説明会等一覧表

(1) 企画展

企画展として『田村遺跡展』－稲作と環濠集落－を2004年8月2日(月)～10月29日(金)の期間、当センターの本館展示室及び研修室を会場に開催した。

『田村遺跡展』は、高知空港拡張整備事業に伴う田村遺跡群発掘調査が平成15年度に報告書の刊行によって完了したため、その成果を広く公開することを目的として行われたものである。

田村遺跡群は弥生時代前期から後期中葉まで営まれた遺跡で地域の拠点集落であったと考えられている遺跡で、遺構では約400棟の竪穴住居跡、約200棟の掘立柱建物跡を確認している。また、遺物は出土量が膨大でその種類も多岐にわたっている。このため、『田村遺跡展』は本年度と次年度の2カ年に分けられる計画で本年度は「土佐の米作りの開始と村の発展」をテーマに主に弥生時代前期の田村遺跡群を中心に展示を行った。

開催期間中の8月14日、29日、9月11日の各土曜日には「子ども考古学教室」を開催し、展示品の見学や収蔵庫探検のほか、勾玉作りや火起こしなどの体験活動を行った。延べ175名の親子の参加者があった。



写真1 展示会風景

また、9月12日(日)には埋蔵文化財センターに近接しているホリデーイン高知を会場に、愛媛大学法文学部教授の下條信行氏を講師に、「東アジアにおける弥生社会と田村遺跡群」という演題で講演会を開催した。また、開催期間中の展示解説においても、田村遺跡の成り立ちや弥生人の生活、集落や墓制の移り変わり等について東アジアを含めた広い視野からの講演に参加者の多くが興味や

関心をもたれたようであった。企画展への参加者は延べ1,120人であり昨年度よりも310人余りの増加があった。

その他の企画展では、2004年から四国の身近な出土文化財に親んでもらうことを目的に四国四県と松山市の埋蔵文化財センターが合同で企画展示を行うことになり第1回埋文センター巡回展「発掘へんろ」を開催した。このような県を越えて各地域の歴史にスポットライトを当てた遺跡紹介は全国的にも初の試みでたいへん注目を集めている。合同展示会は四国埋文センター巡回展「発掘へんろ」とし、四県と一市が遺跡から出てきた土器、石器、木製品や遺跡写真を展示した。各県の遺跡からの出土品を一度に見られるということもあり、「四国の発掘成果が一度に見られて良かった。」という評価を得ることができた。8～9月の巡回展開催期間中には延べ802名の参加者を数えることができ、昨年よりも入館者数において約100人増加し概ね好評のうちに終了することができた。

(2) 出前考古学教室

平成16年度 出前考古学教室

今年で6年目を迎えるこの事業は、埋蔵文化財センターの普及啓発事業の一環として始められた。職員が学校に向向き、副読本「土の中からこんにちは」を用いて埋蔵文化財についての授業を行うとともに、出土資料等の実物に触れながら埋蔵文化財を直接体験してもらっている。併せて土器や石器・写真パネル・発掘調査のビデオを用いた展示・解説、火起こしや勾玉作り・貝殻や縄紐等の施文具を用いた粘土板への模様付けなどの体験コーナーも用意されている。

初年度は南国市教育委員会の後援のもと、南国市内の小・中学校を対象に実施され、小学校8校・中学校2校の計10校で授業が行われた。内容は、副読本「土の中からこんにちは」及び資料を用いた授業、土器や石器・写真パネル・発掘調査のビデオなどを持ち込んだの展示コーナー、火起こし・石器作成・縄文付け等の体験コーナーで構成された。

平成12年度からは、高知県教育委員会が予算化し、埋蔵文化財センターが実施している。県下全域で30校近くの学校を巡り、遠くの場合は1泊ないし2泊することもあった。

内容については、毎年度それまでの反省をもとに改善を加えている。今年度はこれまで各担当者に任されていた授業構成を、出前考古学教室の目的に合わせてある程度統一したり、パソコンやプロジェクター等の機器を積極的に活用したりした。また、昨年度は数校で試験的に行われた勾玉作りを小・中規模校すべてで実施することにした。

今年度は、4月中に準備と打ち合わせを行い、5～6月の2ヶ月で県下31の小学校を訪問した。

担当は、5班を中心に8名の職員があたった。大規模校では7名で実施し、小・中規模校や宿泊を伴う学校へは5名で対応した。今回は、各担当が7校から29校を訪問したことになる。5～7名で、教室での授業・展示場での遺物説明・火起こしの指導・勾玉作りの指導を割り振った。

授業担当者は授業を受け持つとともに、小・中



写真2 授業風景

規模校では勾玉作りの指導も中心になって行った。その他の職員が展示の準備をし、交代で展示遺物の説明や火起こしの指導を担当した。昼休みには全員で火起こし希望児童の対応にあたった。

授業は社会科の学習内容との関連を考え、小学校6年生のみを対象に行った。内容については、今年度は基本となるスライドを作成し、それをもとに各授業担当者が工夫を加えていった。基本的には、埋蔵文化財センターの仕事・遺跡の説明・旧石器～古墳時代の特徴・各地域の遺跡についてなどを扱い、遺跡を身近に感じてもらうことをねらった。地域の遺跡については、各小学校を中心としてその周辺の遺跡地図を作成して説明を行うとともに、子どもたちに場所が分かるようなスライドも活用して興味を持つように工夫した。また、各時代の特徴については絵図を利用し、子どもたちの既習内容を引き出す授業も行った。なお、勾玉作りを行った小・中規模校に於いては、勾玉の意味や作り方を説明するスライドも使用して理解を深めた。子どもたちの感想でも、自分たちの地域に遺跡があることへの驚きや埋蔵物に対する親しみが記されていた。

展示説明には、6年生を中心に希望があれば全学年を対象に行った。学年によって発達段階が異なるため、説明内容や言葉遣いにも配慮した。特に低学年では、興味を持たせるような説明を工夫した。人数の多い学級では2グループに分け、旧石器・縄文時代のテーブルから順に、弥生・古墳時代、古代・中世・近世へと説明をしていった。副読本「土の中からこんにちは」を利用して遺物を身近に感じるようにしたり、クイズを取り入れて楽しみながら学習できるような工夫も加えたりした。また、展示してある土器・石器・石製品・木製品等の遺物から、各時代の特徴を抽出して説明するように心がけた。

火起こし体験も希望があればどの学年でも実施した。1クラスを2班に分けて展示説明と交代で活動させることが多かった。火起こし体験は、場所や天候に左右されやすい活動ではあるが、子どもたちの人気が高く、何度も挑戦する児童がいた。最初に火の起こし方について説明するとともに、危険を伴う活動でもあるので注意事項を十分に周知させた。さらに火種のできる原理や工夫点についても伝えていった。火起



写真3 授業風景



写真4 火起こし体験



写真5 勾玉作り

こしの手法としては、まいぎり法を取り入れた。6年生の平均的な体力であれば、約3～5分で火種を起こすことができる。今年度も回転器に工夫を加えたが、うまく回転しないこともあった。紐の長さや重さ、芯の材質など様々な理由によって火の着き易さが変わってくるので、今後も改良を重ねていく必要がある。

今年度は、勾玉作りを全部の小・中規模校(24校)で実施した。授業の終わりに勾玉の秘密と作り方をスライドで説明し、各児童が自分で作りたい勾玉の形を5cm×5cmの滑石の上に鉛筆で描いておくようにした。そして、基本的には、6年生の体験の時間に授業を担当した者とあと1名で、勾玉の絵を描いた部分以外の滑石部分を工作用のこぎりで切断しておくようにした。勾玉作りの時間の指導も授業担当者が中心になって行った。まず荒めのサンドペーパーで記入した絵の形に削り、その後丸味をつけていった。仕上げは水性のサンドペーパーで磨いていき、希望者は好きな色で塗るようにした。

以下、出前考古学教室の成果を挙げてみる。

限定された人間関係の中に、外部講師や地域の人材を招き、幅広い交流や体験をさせようという試みは教育的に大きな成果を得ている。その意味で、受け入れる学校により温度差はあるものの、出前考古学教室に対する期待は大きい。5名から7名の職員が学校に出向き、子どもたちと触れ合いながら体験活動を行うとともに、本物の遺物を持参しての学習活動は、他の活動では得られない満足感を残すことができるだろう。

授業では、自分たちの住んでいる地域のすぐ側に遺跡があることに驚き、歴史を身近に感じるようになったという感想が多かった。また、遺物展示では、本物に接することにより普段は味わうことのできない感動を覚えていた。火起こし体験では、昔の人の苦労がわかるとともに、火起こしに成功したときの喜びが大きいようであり、何度も挑戦する子どもが多かった。勾玉作りも人気が高く、「宝物にする。」という嬉しい声も聞かれた。

いずれの活動にしても、歴史的過去への興味関心とともに、普段の学習では味わえない体験ができたり、成功感が味わえたりすることによる満足が大きいようである。

先生方の反応としては、普段の授業では扱えない内容や簡単には見ることのできない遺物を持参したことへの感謝の声が多かった。また、地域の遺跡を取り上げ、小地図や大地図を活用したりスライドで説明することにより、子どもたちが遺跡を身近に感じるようになったという感想ももらった。

先生方や子どもたちのアンケートにも見られるように、出前考古学教室は大変好評であり、特に火起こし経験や勾玉作りは子どもたちに大変な人気である。また、思いもかけず身近にあった遺跡の説明や、遺物に直に触れることで、子どもたちの目の輝きは明らかに違ってきた。これまで勉強のための勉強であった歴史学習が、地域の埋蔵文化財に実際に触れるという体験を通して、現在の自分たちの生活とどこかつながる「生きた歴史」として子どもたちが認識するようになったという成果がもたらされている。

一方、課題や出前考古学教室の方向性として以下のような事柄が考えられる。

①出前考古学教室も6年目が終わり、県下の多くの学校に周知されるようになり、大きな好評を得

ている。そして、「数年に1回ではなく、毎年来てほしい。」という声も多く聞かれる。6年生の子どもたちは毎年替わるわけであり、学校の希望に応じてより多くの学校への訪問が望まれる。

②教室の内容としては、学校の希望を考慮しながらも、実際に出前考古学教室で無理なく実施できる活動を工夫していく必要がある。また、教室本来の目的を明確にし、それに合致した内容に絞っていくことも考えなければならぬだろう。

③授業や展示説明は除いて、火起こしや勾玉作りについてはボランティアの方の協力をお願いする方法も考慮していけばどうだろうか。

子どもたちの生きる力や活動意欲の低下が問題となって久しい。埋蔵文化財センターとして子どもたちが生き生きと活動し、地域の遺跡や本物の遺跡に目を輝かせることができるような手助けを続けていきたい。そのためには、現場の先生方とも十分な情報交換を行い、学校教育の中に埋蔵文化財センターの意義や役割を宣伝していく必要がある。

表12 平成16年度出前考古学教室実績一覧表

No.	実施日	市町村名	学校名	授業クラス		担当職員数	備考
				数	人数		
1	5/10(月)	南国市	後免野田小学校	1	31	8	勾玉作り
2	5/11(火)	吾北村	小川小学校	1	22	5	勾玉作り
3	5/12(水)	伊野町	伊野小学校	2	57	7	
4	5/13(木)	中村市	利岡小学校	1	17	5	勾玉作り
5	5/14(金)	伊野町	神谷小学校	1	13	5	参観日 勾玉作り
6	5/17(月)	高知市	久重小学校	1	12	5	勾玉作り
7	5/18(火)	南国市	三和小学校	1	24	5	勾玉作り
8	5/19(水)	土佐町	田井小学校	1	21	5	勾玉作り
9	5/20(木)	土佐山田町	片地小学校	1	23	5	勾玉作り
10	5/24(月)	土佐市	新居小学校	1	21	5	勾玉作り
11	5/25(火)	高知市	横内小学校	3	112	7	
12	5/26(水)	吾北村	下八川小学校	1	16	5	勾玉作り
13	5/27(木)	室戸市	吉良川小学校	1	22	5	勾玉作り
14	5/28(金)	大豊町	大豊小学校	1	15	5	勾玉作り
15	6/1(火)	安芸市	川北小学校	1	36	5	勾玉作り
16	6/2(水)	土佐山田町	舟入小学校	1	21	5	勾玉作り
17	6/3(木)	佐川町	黒岩小学校	1	6	5	勾玉作り
18	6/8(火)	中土佐町	上ノ加江小学校	1	15	5	2校合同 勾玉作り
19	6/9(水)	窪川町	窪川小学校	2	82	5	3校合同
20	6/10(木)	高知市	長浜小学校	3	120	7	
21	6/11(金)	須崎市	横浪小学校	1	26	5	勾玉作り
22	6/15(火)	西土佐村	本村小学校	1	10	5	勾玉作り
23	6/16(水)	大正町	北ノ川小学校	1	11	5	勾玉作り
24	6/17(木)	宿毛市	宿毛小学校	2	60	5	
25	6/18(金)	野市町	野市小学校	3	105	7	
26	6/22(火)	土佐清水市	三崎小学校	1	30	5	4校合同 勾玉作り
27	6/23(水)	大月町	弘見小学校	1	56	5	9校合同 勾玉作り
28	6/25(金)	土佐市	高石小学校	1	8	5	勾玉作り
29	6/28(月)	吾川村	大崎小学校	1	19	5	2校合同 勾玉作り
30	6/29(火)	南国市	岡豊小学校	2	52	6	
31	6/30(水)	南国市	国府小学校	1	20	5	勾玉作り
合 計				41	1083	167	勾玉作り(495+教職員)

4. 研修事業

その他、学校やその他団体に講師として28件、職員の派遣を行った。

No.	日付	内容	場所
1	6月6日	国府小学校「一日先生」	南国市立国府小学校
2	6月13日	夜須小学校「一日先生」	夜須町立夜須小学校
3	6月23日	土佐市内小中学校社会科部会 研修会 土佐市内の埋蔵文化財についての研修を行う	主催 土佐市教育委員会(会場 高岡第一小学校)
4	6月26日	平成16年度考古学入門講座での講演	徳島市立考古資料館
5	7月26日	土佐国分寺の説明	土佐国分寺内
6	8月4日	夜須町子ども考古学教室(講和・火起こし・勾玉作り等)	夜須小学校体育館およびグラウンド
7	8月6日	南国市教育研究会 小学校社会科教育研究会 夏休み子ども教室「高知龍馬空港と歴史探訪教室」	埋蔵文化財センター他
8	8月12日	香北町立学校教職員夏期研修会「川上美良布 神社銅鐸と美良布遺跡について」	香北町保健福祉センター
9	8月30日	平成16年度第1回高知城石垣専門家会議	高知城現場事務所
10	9月13日	平成16年度非常勤講師 高知学(黒潮と土佐の先史文化)	高知短期大学
11	10月6日	高知城三ノ丸跡発掘調査に関する勉強会講師	県庁北庁舎3階第1会議室
12	10月14日	講和・ビデオ放映・火起こし	高知県立高知江の口養護学校
13	10月22日	夜須町の遺跡について	夜須町千切発掘現場
14	11月6日	総合的な学習の時間「郷土の歴史と文化を考える」	南国市立香長中学校
15	11月15日	馬路村古代文化体験教室(勾玉作り・火起こし)	馬路村立馬路小学校
16	11月16日	香宗城の(伝)礎石の確認判定調査	野市町教育委員会
17	11月20日	平成16年度香北町文化祭特別展「刈谷我野遺跡展」関連事業体験考古学「勾玉作り教室」開催	香北町基幹集落センター
18	11月26日	久礼田小学校学年行事(勾玉作り・火起こし)	南国市立久礼田小学校
19	12月2日	事務所研修会「東部地区における埋蔵文化財の状況について」	安芸土木事務所会議室
20	12月12日	特別巡回展「発掘された日本列島2004-新発見考古速報展-」講演会	高知県立歴史民俗資料館
21	12月17日	火起こし体験・講和・質問(中学校での体験入学)	高知市朝倉中学校
22	12月21日	火起こし体験・講和・質問	高知市朝倉中学校
23	1月28日	火起こし体験・講和・質問	南国市鷹ヶ池中学校
24	3月5日	特別巡回展「発掘された日本列島2004-新発見考古速報展-」講演会	高知県立歴史民俗資料館
25	3月15日	平成16年度第2回高知県文化財保護審議会	高知会館3階平安
26	3月16日	高知大学人文学部研究プロジェクト「臨海地域における戦争と海洋政策の比較研究」第3回研究会	高知大学人文学部人間文化第2演習室
27	3月29日	平成16年度第2回高知市文化財保護審議会	県民文化ホール高知市分館1階会議室
28	3月29日	吾川村埋蔵文化財発掘調査に関する講演会	吾川村役場

表13 平成16年度講師等職員派遣一覧表

(1) 調査員専門研修

県内外の専門家を招聘し、発掘調査にかかる調査員の資質の向上を図った。

第一回

期 日 平成16年7月22日～23日

講 師 高知大学人文学部助教授 清家 章

第二回

期 日 平成16年11月18日～19日

講 師 京都大学副学長 金田 章裕

(2) 埋蔵文化財センター新規職員・市町村職員研修

埋蔵文化財センター新規職員・市町村文化財担当職員を調査員として養成し、市町村主体の発掘調査のレベルアップを図るための研修を行った。参加者は5市町村から7名と当センターの本年度新規異動者。

期 間 平成16年4月12日～23日

講 師 埋文センター調査員(埋蔵文化財保護行政を除く)

参加者名	所 属	参加者名	所 属
田 所 千 佳	南国市教育委員会	近 森 孝 章	赤岡町教育委員会
松 本 安紀彦	香北町教育委員会	荒 井 祐 輔	芸西村教育委員会
野 島 照 男	野市町教育委員会	坂 本 伸 行	埋蔵文化財センター
岩 神 明 美	野市町教育委員会	前 田 憲 志	埋蔵文化財センター
溝 淵 麻 紀	野市町教育委員会		

表14 平成16年度市町村埋蔵文化財担当職員研修参加者一覧表

実施月日	曜日	実 施 科 目			
		午前実施科目	担当者	午後実施科目	担当者
4月12日	月	埋蔵文化財保護行政	県教委埋蔵文化財班	発掘調査	藤方
4月13日	火	考古資料の見方	藤方	測量実習	坂本
4月14日	水	整理作業の方法	吉成	写実実習	吉成・坂本
4月15日	木	旧石器・縄文時代	曾我	遺物実測 1	曾我
4月16日	金	弥生時代	小野	遺物実測 2	小野
4月19日	月	古墳時代	久家	遺物実測 3	久家
4月20日	火	古代	徳平	遺物実測 4	徳平
4月21日	水	歴史民俗資料館見学	山本	地域の遺跡を歩く	山本
4月22日	木	中・近世	筒井	遺物実習 5	筒井
4月23日	金	報告書作成と活用	下村	情報処理・DTP	下村

表15 平成16年度埋蔵文化財センター新規職員・市町村職員研修

IV 各遺跡の発掘調査概要

口槇ヶ谷遺跡(04-1YK)

1. 所在地 香美郡夜須町出口・千切
2. 立地 夜須川左岸の低位段丘
3. 時期 弥生時代、古代～近世
4. 調査期間 平成16年5月12日～平成17年1月31日
5. 調査面積 5,510m²
6. 担当者 廣田佳久・中山真司・下村裕
7. 調査成果 口槇ヶ谷遺跡の発掘調査は国土交通省土佐国道事務所が計画している南国安芸道路の建設に伴い、平成16年5月から平成17年1月まで実施された。本遺跡は香美郡夜須町出口・千切に所在する遺跡で、地形的には夜須川左岸の低位河岸段丘上に立地している。



本遺跡は香美郡夜須町出口・千切に所在する遺跡で、地形的には夜須川左岸の低位河岸段丘上に立地している。

この遺跡で確認された最も古い時期は弥生時代中期頃で、水利施設と考えられる溜池状の遺構が当時の谷部とみられる部分から確認されている。この溜池状遺構は谷水を溜めておき稲作等に利用したと考えられ、この遺構の存在から本遺跡の周辺には弥生時代の集落が存在しているものとみられる。

弥生時代以降本遺跡において人々の活動が認められるのは古代で、当該期で特に注目される遺構は2間×3間の掘立柱建物跡である。この掘立柱建物跡は段丘上から谷部に向かう緩斜面上で検出されており、大きいもので一辺約1mの隅丸方形の柱穴で構成されている。このような方形の柱穴で構成される建物跡は円形の柱穴で構成される一般の建物跡と異なり、当時の役所に関連する施設の可能性が考えられる。

次に続く中世に本遺跡は最盛期を迎える。調査区の全域に掘立柱建物跡を始めとした遺構が展開し、集落を形成していたと考えられる。遺構では屋敷跡を区画していたと考えられる溝跡やそれに沿った形の堀跡も確認されており、集落には数区画の屋敷が存在していたものとみられる。区画溝と考えられる溝跡からは廃棄されたと考えられる土師質土器、瓦器、瓦質土器などがまとめて出土しており、当時の人々の生活が窺われる。また、近世にも段丘上を中心に集落が展開していたと考えられる。

夜須町で本格的な発掘調査が実施されたのは初めてのことであり、今回の調査結果は夜須町の歴史を考えるうえで貴重な資料になると考えられる。本遺跡の発掘調査は来年度も計画されており、今後新たな発見が期待される。



写真6 遺構完掘状況

西野々遺跡 (04-2NN)

1. 所在地 南国市大桶字西野々
2. 立地 扇状地
3. 時代 弥生時代～近世
4. 調査期間 平成16年5月17日～平成17年2月21日
5. 担当者 廣田佳久、曾我貴行、小野由香、筒井三奈
6. 調査面積 14467㎡(うち下層確認トレンチ347㎡)
7. 調査内容 西野々遺跡は南国市大桶字西野々に所在し、遺跡



の西側は従来、茶田遺跡として周知されてきた。平成15年の試掘調査で、遺跡範囲が小字名の「茶田」よりも東に広がることを確認し、地元の方々からの要望もあったことから、遺跡名を「西野々遺跡」へと変更する事となった。調査区は東からⅠ～Ⅴ区に分け、平成16年度はその半分のⅠ区～Ⅲ区東半部の発掘調査が実施され、弥生時代から近世の遺構・遺物を確認した。

弥生時代の遺構は、Ⅰ区の北西端部で弥生時代中期後半～後期初頭の竪穴住居跡2軒、舟形土坑などを検出した。これらの遺構は弥生時代の集落の一角を構成するものとみられ、集落はさらに東に広がる可能性が高い。またⅡ・Ⅲ区では溝跡を確認した。Ⅲ区では弥生時代後期の溝跡を複数検出しており、集落を区画する性格のものであった可能性も考えられる。遺物は弥生土器、サヌカイト製石鎌、環状石斧などが出土した。

古代になると遺跡周辺は活発な土地利用がなされたようで、Ⅰ区で方形の掘方の柱穴で構成された掘立柱建物跡9棟、Ⅱ・Ⅲ区で多くの溝跡を検出した。遺物は、緑釉陶器、土師器、須恵器、布目瓦に加えて、県内での出土例の少ない二彩陶器が出土した。墨書土器などは出土していないが、これらの建物跡は、何らかの官衙関連施設であったものとみられ。また遺跡の北側には「郷ノ前」のホノギ名が残っていることから、古代の大曾郷と関連のある施設であった可能性が考えられる。

中世の遺構は調査区のほぼ全域で、屋敷跡に伴う掘立柱建物跡、溝跡などを検出した。屋敷跡は、2間×3間程度の掘立柱建物跡4～5棟で構成され、溝または堀で区画されていたと考えられる。またⅡ区では畝跡とみられる畝状遺構を検出しており、中世の集落の様相を窺うことができる。遺物は



写真7 西野々遺跡Ⅰ区竪穴住居跡(弥生時代)

白磁、青磁、瓦器、土師質土器などが出土した。

西野々地区での本調査は今回が初であり、弥生時代～近世までの幅広い時期の遺構・遺物を確認したことは、当地域の歴史解明の上で非常に大きな成果であったと言える。弥生時代の遺構・遺物は、約1.5km離れた当該期の拠点集落である田村遺跡群、および周辺の弥生遺跡との関係を考える上でも重要である。また古

代以降の遺構の性格の解明には、文献史学の面からのアプローチも必要と考えられる。各時代の詳細な様相については、平成17年度の調査成果を待ちたい。



写真8 Ⅲ区溝状遺構(弥生時代～中世)



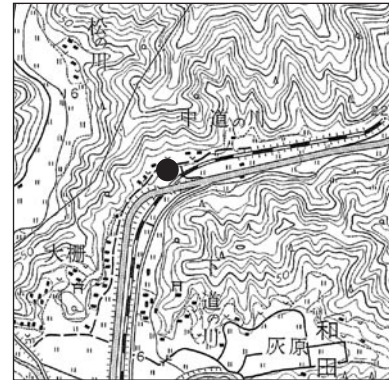
写真9 西野々遺跡Ⅰ区掘立柱建物跡(古代)



写真10 西野々遺跡Ⅱ区掘立柱建物跡(中世)

坪ノ内遺跡(04-4NT)

1. 所在地 高岡郡中土佐町久礼道の川
2. 立地 谷平野
3. 時代 中世・戦国時代
4. 調査期間 平成16年6月7日～7月14日
5. 調査面積 1,500㎡
6. 担当者 出原恵三
7. 調査内容 坪ノ内遺跡は、久礼湾に注ぐ久礼川の支流、松の川



に向かって開けた谷間の開口部に位置し、標高6～7m前後、久礼湾汀線からはおよそ1,500m程のところにある。遺跡は狭い谷状の地形にあって、山裾に沿うように細長い平坦面を削り出して敷地造成を行なっている。遺物は10世紀代から見られるが12世紀から15世紀代の遺構・遺物が中心であり、近世陶磁器も多く見られる。中世遺物は平坦面の中央部から多く出土しているのに対して、近世遺物は山斜面際から多く出土している。これは近世にいたって造成が山側に向かって拡大されたことを示している。

中世の遺物は、供膳形態として土師器坏・皿、瓦器椀、青磁・白磁の碗・皿、煮沸形態は瓦質鍋・羽釜、石鍋、貯蔵形態として古瀬戸瓶子、備前甕、その他古瀬香炉などが出土している。近世は肥前産染付け皿類が多いが、上絵付けも多く認められる。また1点であるが肥前産の甕が出土している。口縁部に貝目痕を持ち16世紀末～1630年代に比定できるもので、南四国では初めての出土である。遺構は柱穴と土坑であるが、大型の掘立柱建物が注目を集めている。この建物は、梁間3間(6.4m)、桁行5間(11.6m)の総柱建物で、長軸を南北方向にとり面積は約75㎡を有する。柱の掘り方も径70cm前後と大きい。柱穴の底には扁平な割石を並べて礎板としているものや柱抜き取り痕出



写真11 遺構完掘状況

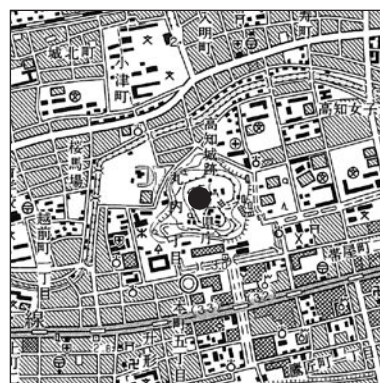


写真12 青磁出土状況

土の土師器坏から造営年代を15世紀代に求めることができる。当該期におけるこのような大型の建物の検出例は珍しく位置付けが難しいが、総柱建物であることや立地環境から見て物資集積の倉庫として捉えることができよう。すなわち当地は四面を山と海に囲まれた一種孤立的な環境にあるが鎌倉期から文献に九条家の荘園として登場し、五輪塔なども多く見られる。戦国期には西山城や久礼城などが平野を囲むように営まれ、久礼湾は要港としての機能を果たしている。いわば要港に臨む物資の集積地の一角を当遺跡は占めていたと考えることができよう。

高知城三ノ丸石垣調査(04-6KK)

1. 所在地 高知市丸ノ内
2. 立地 独立丘陵
3. 時代 中世～近世
4. 調査期間 発掘調査 平成16年8月9日～10月22日
解体調査 平成16年1月8日～平成17年3月31日
5. 調査面積 発掘調査 730㎡
解体調査 310㎡
6. 担当者 松田直則・坂本信之・久家隆芳



7. 調査内容 近年、高知城の石垣孕みや陥没が生じていることが判明した。高知県教育委員会では、安全性を考慮し、積み直し等の防災上の措置をとる必要性から、本丸及び三ノ丸の石垣について整備を行うことになった。本丸南石垣は平成15年度に終了し、平成16年度から三ノ丸の石垣整備を開始した。三ノ丸の石垣は、南面・東面・北面に構築されているが、そのうち東石垣の南半部と南石垣が今回の整備対象である。石垣解体にあたり石垣背面の影響のする範囲について事前に発掘調査を実施し、解体調査については工事と並行して石垣の裏ゴメと盛土状況を確認し記録を作成した。

解体前の石垣背面における発掘調査では水路遺構・集石遺構・ピット・土坑等を検出した。出土遺物は、瓦・伊万里焼・唐津焼・中国産貿易陶磁器・備前焼等である。検出された水路遺構等は、1650年以降に三ノ丸石垣が一部改修された時に造られたと考えられる。

解体調査では、築石・裏ゴメ・盛土の状況を確認し、さらに現存する石垣の内側から旧石垣を新たに検出した。盛土はⅠ～Ⅵ層にわけることができる。Ⅱ層からは多くの遺物が出土し、下限の年代で1650年頃生産された伊万里焼も含まれていた。この遺物の年代からⅡ層は文献に記されている慶安3年の石垣崩壊で改修された痕跡と推定される。その下のⅢ層(慶長16年造成のときの盛土)からは瓦片が多く出土したことから、山内一豊か長宗我部元親の時代に既に三ノ丸には瓦葺の建物が存在していたと推測できる。平成12年度の調査で確認された旧石垣とともに慶長16年以前の三ノ丸を復元する重要な資料となる。また、Ⅰ～Ⅵ層は中世段階の遺物しか出土していない。

旧石垣は、現存石垣の下端部から約3mの高さで、内側に約4～6m奥の地点で検出した。残存状

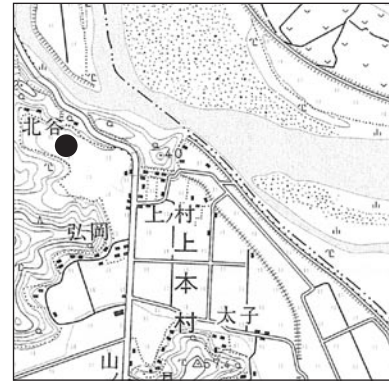


写真13 背面調査遺構完掘状況

況が悪く根石(ねいし)と考えられる部分と、裏ゴメ部分、さらに当時積まれていたと考えられる築石(つきいし)を確認したのみである。地山を断面L字状に掘削し、石垣を構築している。三ノ丸の現存石垣は、慶長16(1611)年に構築されたと文献では記載されている。旧石垣は、現存石垣の内側から検出されているので、慶長16年以前に構築されたと考えられ、山内一豊か長宗我部元親の頃に築かれたものと推定される。

土佐市 北ノ丸遺跡(04-9TK)

1. 所在地 土佐市新居字北ノ丸
2. 立地 低湿地
3. 時代 古墳時代後期～古代
4. 調査期間 平成16年10月12日～12月14日
5. 調査面積 1,500㎡
6. 担当者 出原恵三
7. 調査内容 北の丸遺跡は、仁淀川右岸に向かって開口する谷平野の中にあり、開口部の前方を自然堤防で閉塞された低湿地に立地している。



野の中にあり、開口部の前方を自然堤防で閉塞された低湿地に立地している。海岸線からの距離は約2km、標高は3m前後を測るが、1.5～2.0mの厚さで客土が置かれている。客土と旧耕作土、更に下層の腐食土層を除くと杭列が検出されたが、整然とした並びではない。10世紀後半代の土師器椀の破片が数点出土しているだけで杭列の性格や時期比定は難しい。さらに下層に進むと試掘調査で確認した木製品出土の層準に達し、多量の出土を見た。遺構に伴うものではなく、多くは散在するように出土しているが、中には折り重なるように集中出土しているところもある。一緒に出土した土器から6世紀後半代に属するものと考えられる。

木製品の種類は、建築材、農具、船材、曲げ物、琴、槌の子、負い子、衣笠の鏡板など多岐にわたっており、琴、鏡板、負い子は県下初めての出土である。建築材には扉、高床倉庫の床材や壁材、船材は、板状のものが多く見られ長方形の大小の孔を穿っているものが目立つ。建築材や船材は手斧による丁寧なはつきり痕が見られる。農具では田下駄が多く10点以上出土している。サイズは大小さまざまで、曲げ物底板や椅子を転用したものなども見られ興味深い。

琴は、現存長73.4cm、幅13cm、厚さ1.1～1.3cmを測り、杉材と考えられる。琴尾に3個の突起が認められるが、本来は5～6個突起、長さ120cm、幅22cm前後で、共鳴槽を持った琴に復元されよう。出土の背景には琴を奏でる「まつり」の存在が想定され、鏡板の出土とも相俟って当遺跡は古墳時代後期の祭祀空間としても機能したことが考えられる。



写真14 木器出土状況



写真15 北ノ丸遺跡出土琴

西山城跡(04-7N N)

1. 所在地 高岡郡中土佐町久礼字城山、下越
2. 立地 久礼川、松の川の合流部にある丘陵上
3. 時代 中世
4. 調査期間 平成16年11月5日～平成17年3月16日
5. 調査面積 約8,000㎡
6. 担当者 吉成承三・前田憲志
7. 調査内容 西山城跡は、中土佐町久礼字城山、下越にある中



世の山城で、久礼川、道の川合流部にある標高70mを測る丘陵上に立地している。山頂からは、久礼の街や久礼湾、須崎方面へつながる焼坂峠など四方を見渡すことができる展望の良い立地にある。

調査前に確認できた遺構として次のものがある。山頂部には、長さ約40m、幅8～10m、面積約360㎡を測る弧状を呈した「詰」と考えられる平場があり、その東側6m下に、詰に沿って「く」の字型をした面積約315㎡の「腰曲輪」と考えられる平坦面がある。腰曲輪の両端には、「土塁」があり、南の土塁下には「堅堀」が認められる。北東に延びる尾根には、6条の「堀切」を連続させており、一部は堅堀と連結する。南西に延びる尾根には4条の堀切があり、詰直下の堀切には、北西、西、南東の3方向に堅堀が連結する。この堀切から南西に向けて地形が下がり、標高54mにかけて3本の堀切が連続する。腰曲輪東下斜面には、堅堀を連続させた「畝状空堀群」があり、さらにその下、標高45m付近には調査区外にあたるが4本の畝状空堀群を確認することができる。西斜面(松の川側)は、急峻で、自然の地形を利用した堅堀と考えられる遺構が一部に見られる。

このように、現況でも城の遺構を明確に確認する事が可能であり、当時の城の姿をそのまま残している。城の縄張りから見て、堀切や堅堀といった遮断施設を多用しており、極めて防御性の高い城造りといえ、性格的には軍事的な緊張(戦)の中で構築された砦的な可能性が高いと思われる。

今回の調査は、四国横断自動車道(中土佐～窪川間)建設に伴うものであり、平成17年度へ継続される。今年度は、「詰」、「腰曲輪」、南西に延びる尾根を対象に発掘調査を行った。



写真16 西山城遠景

「詰」では、掘立柱建物、柵列、ピット、土抗、礎石等を検出した。総数22個のピットは、根石を持つものもあり、そのほとんどが南部に集中する。遺物は主に北部と北西斜面から、多数の河原石と共に、破片で500点を超える遺物が出土した。備前の割合が高く約350点、土師質土器と貿易陶磁器が各50点、鉄釘や小札、銅製品、古銭などが出土している。詰の南部では、武具に関係すると思われる銅製品

と土師質土器の皿が共伴して出土した状況が認められ、地鎮、もしくは城の廃城の際に行った儀礼、祭祀行為の跡ではないかと思われる。西斜面では、土師質土器などと共に、瓦質土器の奈良火鉢や鍋、羽釜、風炉、水差しと考えられる奢侈品を含めた青磁や白磁など貿易陶磁器の破片が比較的多く出土している。

「腰曲輪」では、石積み土塁、掘立柱建物跡、ピット、焼成土坑などを検出した。ピットは、根石や遺物を含むものが15個近くあり、総数では50個前後になる。また、腰曲輪から詰に上る通路状の遺構も検出されている。高知県内の当該期の山城の調査での発見例は少なく城の構造を知るうえで貴重な遺構である。さらに、この通路が検出された腰曲輪には、城への入り口にあたると思われる遺構も見つかっており、下方斜面部からのアプローチがどのようなのか来年度の発掘調査に期待される。遺物は、約400点を数え、土師質土器が130点、備前と鉄釘が各90点前後、貿易陶磁器は40点余り、スラグや砥石、石臼などが出土している。このほとんどが詰と同様に主に北部から出土している。

出土遺物の帰属時期は大きく15世紀前半代と15世紀後半から16世紀前半にかけての2時期に分かれる。このように遺物の内容及び出土状況から城の主郭部分の空間の使い方や機能時期を知る上で貴重な成果を得ている。

南西に延びる尾根は、調査前に確認できていた堀切3条と豎堀4本を検出した。また、腰曲輪南端、土塁下の豎堀と連結した横堀状遺構を新たに確認することができた。遺物は、備前や鉄釘など20数点を確認した。

来年度の発掘調査は、北東の尾根筋、東西の斜面部を中心に行う予定であり、現況で確認されている豎堀や堀切の構築時期が出土遺物等により明確になれば、城全体の遺構の変遷が見えてくると考えている。今回の西山城跡の発掘調査は、今までの県内で実施された山城の発掘調査のなかでは初めての大規模な調査であり、最終調査面積は10,000㎡前後になるものと予測され、西山城跡の城域の約90%を発掘調査することになる。西山城跡の城主は、「北村氏」という伝承が地元にはあるが、当時の史実を示す史料は少なく、はっきりとした事は分かっていない。今年度、調査の行われた西山城跡から続く北東の尾根下にある坪ノ内遺跡も来年度の調査が予定されており、西山城跡との関連が考えられる。また、中土佐町の中心的な城である「久礼城跡」や周辺の山城との関わり、ひいては戦国時代に果たしたこの地域の歴史の解明が進むものと考えている。



写真17 詰作業風景

吹上城跡(04-30HF)

1. 所在地 幡多郡大方町浮鞭
2. 立地 独立丘陵
3. 時代 中世
4. 調査期間 平成16年5月17日～6月17日
5. 調査面積 約424㎡
6. 調査担当 前田光雄 坂本憲昭
7. 調査内容 吹上城跡は幡多郡大方町浮鞭に所在し、すぐ前には



海浜があり、西側には加持川が流れる丘陵の先端に位置する中世の城郭跡である。今回の試掘調査は西南大規模公園整備事業に先立つものであり、遺構の残存状況を確認し今後の事業の進め方に資する目的で行われた。

結果は、詰め跡と考えられる一部は現代の攪乱によって壊されていたが、端部や横堀は残存している可能性が高く、その時期は青磁、羽釜などの出土遺物から15世紀末～16世紀と考えられる。

表土直下に遺構が残存しており整備事業の方法によっては遺跡に影響を及ぼすものと考えられるが、西南大規模公園整備事業の進捗状況によって再度開発部局との調整を行うこととして、近々には本調査を行う必要はないものと判断される。

弘野遺跡(04-30HF)

1. 所在地 幡多郡大方町浮鞭
2. 立地 独立丘陵
3. 時代 中世
4. 調査期間 平成16年9月6日～9月21日
5. 調査面積 約176㎡
6. 調査担当 前田光雄 坂本憲昭
7. 調査内容 吹上城跡は幡多郡大方町浮鞭に所在し、すぐ前には

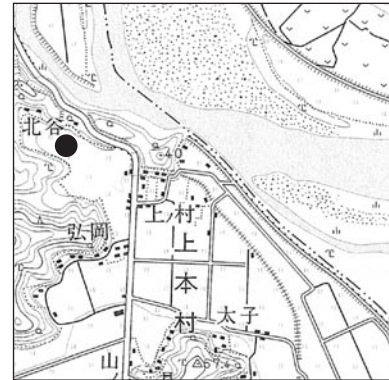


海浜があり、西側には加持川が流れる丘陵に位置し、吹上城跡から続く丘陵の平坦面に位置し縄文時代の石斧が表面踏査で拾われており縄文時代の遺跡として周知されていた。また、長宗我部地検帳では中世の屋敷が存在したことを伝えている。今回の試掘調査は吹上城跡と同様に西南大規模公園整備事業に先立つものであり、遺構の残存状況を確認し今後の事業の進め方に資する目的で行われた。

結果は、縄文時代の遺構遺物は確認できなく現況の畑が造成される際に壊された可能性が高いものと考えられる。長宗我部地検帳で存在が窺われた中世の遺構は表土直下から柱穴が検出され屋敷跡が調査区に広がっていることが確認された。その時期は青磁、羽釜などの出土遺物から吹上城跡と同様に15世紀末～16世紀と考えられる。表土直下に遺構が残存しており整備事業の方法によっては遺跡に影響を及ぼすものと考えられるが、西南大規模公園整備事業の進捗状況によって再度開発部局との調整を行うこととして、近々には本調査を行う必要はないものと判断される。

北ノ丸遺跡(新居地区試掘調査)(04-5NT)

1. 所在地 土佐市新居字北ノ丸
2. 立地 低湿地
3. 時代 古墳時代後期～古代
4. 調査期間 平成16年7月21日～8月13日
5. 調査面積 635㎡(対象面積30,000㎡)
6. 担当者 出原恵三
7. 調査内容 波介川河口導流事業に伴う試掘調査である。事業対



象地に接して戦国時代の山城新居城があることから、周辺平地部にも遺跡が存在している可能性があり、33個の試掘グリッドを設定した。調査区は新居城東の谷地形の中にあり、もとは低湿地が広がっていたが、戦後大規模な圃場整備が行われ厚さ2m前後の置き土がなされている。客土を除くと旧耕作土が見られ、その下は有機物を多く含んだ腐食土層と粘土の互層の堆積が見られる。

遺構は検出できなかったが、谷部中央部から山側寄りに設けた4個のグリッドからは建築材と考えられる木製品が廃棄された状態でまとまって出土し、南端部のグリッドからは弥生後期土器の細片が数点出土した。弥生土器は流れ込みと考えられるが、木製品は元位置を保っており、手斧による丁寧な加工痕やほぞ穴の開けられているものが見られた。木製品に伴う土器がないことから時期を明らかにすることはできなかったが、周辺の状況から見て出土範囲は更に広がるのが予想されたことから、木製品の出土地点を中心に1,500㎡について本発掘調査を実施することにした。

古津賀遺跡(04-8NKO)

1. 所在地 四万十市古津賀
2. 立地 沖積地
3. 時代 古墳時代
4. 調査期間 平成16年10月4日～10月29日
5. 調査面積 約288㎡
6. 調査担当 前田光雄 坂本憲昭
7. 調査内容 古津賀遺跡は四万十市に所在し四万十川の左岸の



沖積地に位置する。古墳時代の周知の遺跡として確認されており、近辺には古津賀古墳が所在する。今回の試掘調査は国土交通省の大方バイパスに伴うものであり事業に先立ち遺跡の有無を確認することを目的としたものである。調査結果は、現地表面から深いところでは近代に3m以上の盛土がなされていることを確認した。包含層と考えられる黒褐色粘土はもともと四万十川寄りの調査区西端のテストピットで確認できたが遺物は確認できなかった。この他のテストピット遺構遺物の確認はできなかった。このため今回の調査範囲では本調査の必要はないものと判断された。

加茂ハイタノクボ遺跡(04-10YH)

1. 所在地 香美郡土佐山田町加茂
2. 立地 河岸段丘
3. 時代 縄文時代～近世
4. 調査期間 平成16年10月18日～10月27日
5. 調査面積 約20㎡
6. 調査担当 藤方正治
7. 調査内容 調査は県道宮ノ口深淵線の整備事業に伴うものである。

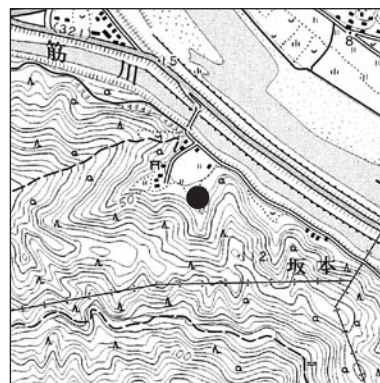


平成16年5月に高知県南国土木事務所から調査に係わる要請があり、用地買収の完了した平成16年10月に試掘調査を行った。調査区は東の三宝山山系から繋がる傾斜面に位置し、西は物部川の扇状地に接する。ここより北側で見られるような段丘崖は残存していないが周囲の状況はやや幅の狭い平坦な屋敷地と耕作面で構成されており、調査部分も水田面の端部である。調査の結果、現在の耕作土下には整地層が存在しており、部分的には2時期の存在が認められる。整地層の下は河岸段丘の構成層と考えられる砂礫層であり、何れも破片であるが遺物が存在した。出土した遺物は、弥生土器・土師器・須恵器・土師質土器・緑釉陶器・白磁・青磁・近世陶磁器・瓦(布目、蓆目)などである。

調査区の上位の斜面に展開する加茂ハイタノクボ遺跡の様相を知る手がかりとなるだろう。

坂本遺跡(04-11NSA)

1. 所在地 四万十市坂本
2. 立地 丘陵斜面
3. 時代 中世
4. 調査期間 平成16年11月8日～11月26日
5. 調査面積 約65㎡
6. 調査担当 前田光雄 坂本憲昭
7. 調査内容 坂本遺跡は四万十市坂本に所在しており小規模な



谷を挟んで香山寺に隣接し、中筋川と四万十川の合流地点にも近接している。調査区の現況は段々畑でありそのもっとも下側部分で青磁が確認されており中世の遺跡として周知されていた。しかし現況から遺構、遺物の存在は薄いものと考えられていた。

今回の試掘調査は国土交通省の中村宿毛道路建設に伴うものであり事業に先立ち遺跡の有無を確認することを目的としたものである。

調査の結果、中世の土師質土器片、青磁片などが出土するとともに瓦、青銅製品が出土し、遺構もピットを確認した。瓦等の遺物や調査区字名が「中の房」であること、中世寺院跡である香山寺と隣接していることなどから中世寺院跡の遺跡である可能性が高いと判断した。

このため、中村宿毛道路建設によって遺跡に影響を受ける部分を対象に平成17年度に本調査を実施することとなった。

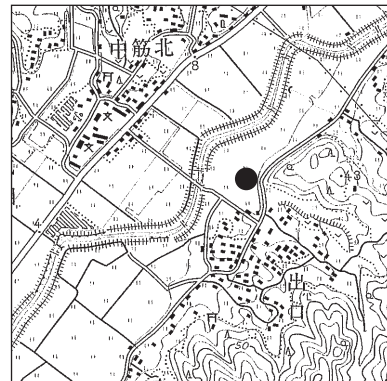
下田ノ口地区試掘(04-120ST)

1. 所在地 幡多郡大方町下田ノ口
2. 立地 沖積地
3. 時代 古墳時代
4. 調査期間 平成16年11月29日～12月1日
5. 調査面積 約15㎡
6. 調査担当 前田光雄 坂本憲昭
7. 調査内容 下田ノ口地区は幡多郡大方町に所在し沖積地に位置している。調査地点は周知の遺跡として確認されていないが周辺には、芝遺跡、東ヲゴウ遺跡などの遺跡が所在している。このため国土交通省の大方バイパスに先立ち遺跡の有無を確認することを目的に試掘調査を行うこととなった。調査結果は、遺構遺物の確認はできなかったが今年度調査を行った範囲が諸事情から非常に狭い範囲のみの調査であったため当該地区の全体様相を反映しているとは言い難く、大方バイパス建設に先立ち継続して試掘調査を行う必要があると判断された。



香我美町徳王子地区(04-14KT)

1. 所在地 香美郡香我美町徳王子
2. 立地 香宗川左岸の氾濫原
3. 時期 弥生時代
4. 調査期間 平成17年2月21日～3月15日
5. 調査面積 424㎡
6. 担当者 廣田佳久・中山真司・下村裕
7. 調査成果 調査対象地内に4×4mのトレンチを27ヵ所設定して調査を行った。このうち調査対象地の東側に設定した3ヵ所のトレンチで弥生時代中期と考えられる溝状遺構をそれぞれ1条検出した。この溝状遺構の埋土は粘土を含む礫質砂であり、当該期の遺物が多く含まれている。また、遺構検出面直上には古土壌がみられ、これは当該期の人間活動を示すものと考えられ、周辺には当該期の集落が存在しているものと考えられる。

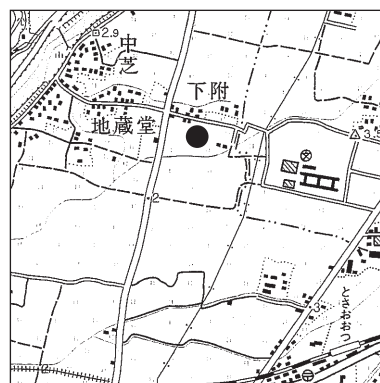


他のトレンチでは明確な遺物包含層は確認されず遺構も検出されなかった。これらのトレンチで確認された堆積層は表土直下に客土がみられ、客土以下の堆積は砂質シルト～粘土質シルトで低湿地の状況を呈しており、香宗川の氾濫原と考えられ、出土した弥生土器、土師器、土師質土器などは流れ込みと考えられる。

他のトレンチでは明確な遺物包含層は確認されず遺構も検出されなかった。これらのトレンチで確認された堆積層は表土直下に客土がみられ、客土以下の堆積は砂質シルト～粘土質シルトで低湿地の状況を呈しており、香宗川の氾濫原と考えられ、出土した弥生土器、土師器、土師質土器などは流れ込みと考えられる。

ミトロ遺跡(04-13KNM)

1. 所在地 高知市布師田
2. 立地 沖積平野
3. 時代 弥生時代
4. 調査期間 平成17年1月11日～1月31日
5. 調査面積 約108㎡
6. 調査担当 坂本憲昭
7. 調査内容 ミトロ遺跡は高知市の東端部布師田に所在してお



り北側には国分川が流れる沖積地に立地している。ミトロ遺跡は弥生時代～中世までの遺跡として周知されており、周辺には延喜式内社である葛木口羊神社が近年まで所在していた。

今回の試掘調査は高知県高知土木事務所の国道195号線建設に伴うものであり事業に先立ち遺跡の有無を確認することを目的としたものである。

調査の結果、一段低くなっている調査区南側では中世の遺物がかかり摩耗した状態でわずかに出土するが、すぐに水が噴き出す状態であった。これより一段高くなっている調査区北側では弥生時代の包含層を確認し弥生時代末と考えられるタタキ目が残る甕などが出土している。また遺構の可能性が考えられる落ち込みも確認しており、弥生時代末の集落遺跡の可能性が考えられる。

このため、調査区南側は流れ込みによる遺物と判断し本調査が必要な可能性は低いものと判断した。調査区北側は弥生時代の集落遺跡が残存している可能性が高いため、次年度本調査の必要があると判断し、高知県高知土木事務所と調整の結果、平成17年度に本調査を実施することとなった。

V 条例・規則

1. 高知県条例・規則

(1) 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

(平成3年3月20日条例第3号)

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例をここに公布する。

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

(設置)

第1条 埋蔵文化財を発掘し、保存し、及び公開することにより、埋蔵文化財に対する知識を深め、もって県民文化の振興に寄与するため、高知県立埋蔵文化財センター(以下「センター」という。)を南国市に設置する。

(管理の委託)

第2条 教育委員会は、センターの管理に関する業務を財団法人高知県文化財団に委託することができる。

(委任)

第3条 この条例に定めるもののほか、センターの管理に必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附則

この条例は、平成3年4月11日から施行する。

(2) 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則

(平成3年3月26日教育委員会規則第5号)

改正

平成4年7月7日教育委員会規則第15号

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則をここに公布する。

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則

(趣旨)

第1条 この規則は、高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成3年高知県条例第3号)第3条の規定に基づき、高知県立埋蔵文化財センター(以下「センター」という。)の管理について、必要な事項を定めるものとする。

(センターの利用)

第2条 センターを利用しようとする者(第4条において「利用者」という。)は、センターに保存されている埋蔵文化財及び保管されている埋蔵文化財に関する資料(第4条において「埋蔵文化財等」という。)の観覧、閲覧、撮影又は模写等を行うことができる。

(利用時間)

第3条 センターの利用時間は、午前8時30分から午後5時までとする。
教育委員会は、前項の規定にかかわらず、特に必要と認めるときは、同項の利用時間を変更することができる。

(遵守事項)

第4条 利用者は次に掲げる事項を守らなければならない。
(1)センターの施設、設備若しくは埋蔵文化財等を損傷し、又はそのおそれのある行為をしないこと。
(2)他の利用者に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
(3)前2号に掲げるもののほか、センターの管理上必要な指示に反する行為をしないこと。

(休所日)

第5条 センターの休所日は、次に掲げるとおりとする。ただし、教育委員会が特に必要と認めるときは、これを変更し、又は臨時に休所日を設けることができる。

- (1)日曜日及び土曜日
- (2)国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日
- (3)1月2日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで

(委任)

第6条 この規定に定めるもののほか、センターの管理及び運営に必要な事項は、教育長が別に定める。

附則

この規則は、平成3年4月1日から施行する。

附則(平成4年7月7日教育委員会規則第15号)

この規則は、平成4年7月18日から施行する。

本書作成データ

ハード：PowerPCG4/1250MHz

システム：MacOS9.2.2

ソフト：Adobe Photoshop® 5.5, Adobe Illustrator® 10.0.3, Adobe InDesign® 2.0.2J

フォント：モリサワOTF基本7書体

プリンタ：EPSON LP-8800C(文書校正)

データ：カラー写真以外はすべてデジタルデータで入稿

高知県埋蔵文化財センター年報

第14号

2004年度

発行日 平成17年10月20日

発行 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター
高知県南国市篠原南泉1437-1
TEL. 088-864-0671

印刷 有限会社 西村謄写堂